

比木神社(児湯郡木城町)

前方が比木神社の社叢



「比木神社」と記された神額が掛かる





社殿への参道



比木神社社記

比木神社は今から千八百年前「第十代成務天皇
の御代武内宿禰に命じ国・県・邑・里を
定められた時社領として百町歩を賜り
五社大明神を崇め奉祀つたのが始まりと
伝えられ極めて古い創建の神社であります。
以来、児湯地域の信仰の中心として住民の
篤い崇敬を集め、幾星霜特に江戸時代
には高鍋藩秋月歴代藩主深く崇められ
度々参拝し、社殿改築、鳥居の建立
龍神絵等多く寄進奉納されていきます。

御祭神は、

・大己貴命（大国様）お妃三穗津姫命

・事代主命（恵比寿様）

・素盞鳴命
お妃櫛稻田姫命

・福智王

百濟王であつたが国亡び安芸の嚴島に逃れ
その後日向の国高鍋町蚊口古港に上陸し
とくに比木に住み德行ありて合祀される。

拝殿

 [video](#)



拝殿の後ろの幣殿と本殿(右奥)



祭神の石柱「福智王」の墓がすぐ近くにあった



前方の五輪塔が「福智王」の墓らしい/左手に説明板が立っている

 video



その昔、朝鮮半島の百済王族が2艘の船で日本に亡命/禰嘉王の一行は日向の金ヶ浜に漂着後、美郷町神門へ、福智王の一行は高鍋の蚊口浜に漂着後、木城町比木に落ち着いた/禰嘉王は神門神社、福智王は比木神社祀られており、年に一度、百済王族の親子の対面を再現する「神門御神幸祭」が行わる

百済王族

福智王と御墓について

今から一三五〇年程前(西暦六六八年頃)朝鮮半島の古代国家「百済」は「新羅」との戦いに敗れ、禰嘉王百済一族は日本の安芸の国厳島に逃れた。新羅より追討軍が来て、百済一族は二隻の船にて南下中嵐に襲われ、豊後水道を漂流の後父禰嘉王と次男華智王は、日向市金ヶ浜に、母之伎野妃と長男福智王は、高鍋町蚊口浦古港にそれぞれに漂着した。

珠の玉占いで禰嘉王は美郷町南郷神門へ、華智王は日向市東郷町中水流の伊佐賀へ、之伎野妃は高鍋町鳴野へ、そして福智王は木城町比木へと安住の地を求め居を構えた。しかし新羅の追討軍が伊佐賀へと押し寄せ、禰嘉王と華智王は迎え撃つも流れ矢で命を落とした。

福智王は、石河内、中之又、雉野、渡川のさまざまな村里の兵を率いて応戦、追討軍を撤退させた。村人達は、敬いをもつて禰嘉王を神門の塚の原に、之伎野妃は鳴野の朝鮮墓に葬り、福智王は比木神社御墓と称されるこの地に五輪の塔を建て、傍らにお供の人を従え葬られ、現在も慰霊の誠を捧げている。

福智王の墓は中央に位置し、銘は無い古い形態を残す五輪の塔で、高さ一五一センチ、幅六四センチの加工石で出来ている。古老の話では墓の前で飛び跳ねると、空洞のあるような音が聞こえたと言い伝えられている。この御墓には他に比木神社の社僧の墓、延命菩薩、弘法大師も祀られている。

異国の百済王族ながら、徳行ありて尊崇され、神様として各々の地域の神社に合祀され、十一月四日に母を尋ねる大年下り、一月下旬に父を尋ねる神門御神幸祭(師走祭り)が、連綿と現在も斎行されている。

平成三十年三月(西暦二〇一八年)

木城町 建立

これが「福智王」の五輪塔



アップで見たところ



様々な古めかしい祭祀の跡が見られる







これはすぐ近くに流れる小丸川/前方が海方向/「福智王」はここへ遡上してきたのか・・・

[video](#)



振り返ると比木神社の大鳥居が立っている/この先が比木神社境内



さて、正面の大木は比木神社のご神木であるクスノキ/木城町指定天然記念物



町指定天然記念物

比木神社クスノキ・チシャノキについて

平成十五年二月七日町制定

比木神社には、大己貴命を始め、六柱の神体が祀られています。そのうち、

一柱に日本に亡命してきた、百濟王族である福智王が祀られています。この福智王は、

現在の児湯郡高鍋町の蚊口浦に漂着し、玉占いの末住み着くようになったのが

現在の木城町比木と言われています。その父親の禎嘉王が、現在の日向市

金ヶ浜に漂着し、南郷村で、神門大明神として、神門神社に合祀されたように、

福智王は火弁大明神として当神社に合祀されています。両神社の間にこの

ような伝説が古来より存在し、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」

に指定され、その存在は高く評価されています。

この比木神社境内における、古木のクスノキは神社鳥居前に二本見られ、慶長元年

(一五九六年)高鍋藩の記録において、すでにこの巨木が植えられていたことが

記されており、樹齢は推定五百年を数え、現在もその歴史的な様相を呈しています。

なお、幹周りは右六m十cm、樹高二十五m、左が幹周り五m五十一cm、樹高は二十mあります。

またチシャノキは別名カキノキダマシとも呼ばれ、県内でも屈指のものであります。

また、宮崎県巨樹百選に指定され、高い評価を受けています。樹齢は推定三百年以上で、

その姿は神社全体を見守るかの様相で、参拝者の心に壮大な

生命力を訴えようとしています。なお幹周りは三六十cmで樹高は三十mであります。

このクスノキ・チシャノキは正に巨木としての規模を有し、心のふるさとも感じ、

鎮守の森にふさわしい巨樹であります。今後とも大切に保存し、

後世へ引き継いでいかなければなりません。

平成十七年建立

木城町教育委員会

立派なご神木だ！



